# Women's Imaging 2018 Breast Imaging Vol.13

# Ⅱ 乳がん診療における画像診断の役割と進化

# 1. HBOC外来診療において 乳腺画像診断に求めること

小田 剛史\*1/久保田一徳\*2/中川 剛士\*1 笠原 舞\*1/石場 俊之\*1/熊木 裕一\*1 足立 未央\*1/藤岡 友之\*2/植竹 宏之\*3

- \* 1 東京医科歯科大学医学部附属病院乳腺外科 \* 2 東京医科歯科大学医学部附属病院放射線診断科
- \*3 東京医科歯科大学大学院総合外科学分野

### 背景

遺伝性乳がん卵巣がん症候群(hereditary breast and ovarian cancer syndrome: HBOC)とは、生殖細胞系列におけるBRCA1あるいはBRCA2遺伝子の病的変異を原因とする遺伝性疾患のことであり、近年、徐々に認知されるようになってきた。2018年は、HBOC診療の大きな転換点になりそうである。

1つ目は、近く乳がん治療において、PARP (Poly (ADP-ribose) polymerase) 阻害剤が承認されることである。PARP 阻害剤は、特にHBOCの患者に効果的であり、コンパニオン診断としてBRCA遺伝学的検査が用いられる。治療を受けるために検査が必要となるため、変異 陽性者と診断された患者あるいはその家族に接する機会が多くなると考えられる。

2つ目は、2018年5月に乳癌診療ガイドラインが改訂されたことである。今回の改訂で、「BRCA1あるいはBRCA2遺伝子変異をもつ乳がん既発症者女性における対側のリスク低減乳房切除が勧められる」という項目が追加になり、ニュースなどでも報道された。リスク低減乳房切除への敷居が下がることによって、BRCA遺伝学的検査を受ける人々が増加することが予想される。

乳がんにかかわる医療者は、HBOCについての知識を深め、医療機関は

HBOC診療の体制作りが求められる。 本稿では、まず、HBOCに関して簡単 に整理し、続いて、HBOCの診療を行 う上で、乳腺画像診断に求めることを中 心に解説したい。

## HBOC についての 一般的事項

### 1. 家族性乳がん, HBOC, BRCA1. BRCA2

家系内に複数の乳がん患者が認められる場合を、家族性乳がん(familial breast cancer)と呼ぶ。その中で、単一遺伝子異常が原因で発生する乳がんを遺伝性乳がん(hereditary breast cancer)と呼ぶ。乳がん全体の $5\sim10\%$ と言われている。さらに、遺伝性乳がんのうち $60\sim70\%$ はBRCA1、BRCA2変異を持ち、遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)と呼ぶ。日本の乳がん患者の中にもHBOC患者が少なくないことが最近わかってきている。

1994年、BRCA1遺伝子は、三木らによってその全構造が明らかにされた<sup>1)</sup>。BRCA1は、第17番染色体長腕に位置し、24個のエクソンから構成されている。多くの機能を持つが、第一はDNA損傷の修復で、二本鎖DNAの切断が起こった場合の組み換え修復において機能している。そのほかにも、転写因子の補助因

子として機能することが判明しており、 細胞増殖やアポトーシスといった細胞機 能を調節していると考えられている<sup>2)</sup>。

1995年、BRCA2は、第二のHBOC 原因遺伝子として同定された<sup>3)</sup>。第13番 染色体に位置し、27個のエクソンから構成されている。役割として、DNAの二本 鎖が切断された場合の組み換え修復に関与し、ほかにも中心体制御や細胞質分裂制御にも働いているとされる<sup>2),4)</sup>。BRCA1とBRCA2は、ほぼ同じ細胞経路で機能しているが、その役割は異なり、また、別経路において機能している可能性も報告されている。

# HBOC における 乳がん発症のリスク

BRCA1あるいはBRCA2の浸透率に関するメタ解析の結果が、Chenらによって報告されている<sup>5)</sup>。それによると、BRCA1に変異を持つ人は70歳までに乳がん発症率が57%、卵巣がんの発症率40%。一方、BRCA2変異は乳がん発症率が49%、卵巣がん発症率が18%である。環境因子や、BRCA遺伝子の変異位置やタイプなどの遺伝的要因によって発症リスクに個人差があるが、いずれにしても高率に乳がん卵巣がんを発症する。

### 3. HBOC の拾い上げ

下記のような場合、HBOC を考慮す